

福山出身の農学者・磯永吉氏



磯永吉氏

福山市出身の農学者で「台湾農業の父」とされる磯永吉氏（1886～1972年）の足跡を紹介する講演会「台湾を変えた福山の偉人」が2月11日、同市霞町のまなびの館ローズコムである。講師は台湾史研究者で作家の古川勝三氏。県内の経済界の有志たちが功績を広く知

「台湾農業の父」功績知って

ってもらおうと実行委員会をつくり企画した。無料。磯氏は1886年、現在の福山市霞町で生まれた。26歳で台湾に渡り、日本のコメの在来品種を交配させて台湾の気候に合った「蓬萊米」と呼ばれる品種を開発。終戦後も台湾大で人材育成に尽力し、台湾政府から日

来月11日講演会 経済界有志ら企画

本の文化勲章に当たる「特種領綬景星勲章」を贈られた。古川氏は1980年から当時の文部省（現文部科学省）の海外派遣教師として台湾の日本人学校に在籍した際、磯氏の足跡や現地での顕彰活動を知った。古川氏と交流のある広島商工会議所元副会頭の河野高信さん（70）や福山商工会議所前副会頭の柿原博樹さん（71）が講演会を企画した。

磯氏は昨年8月に福山市が29人を選んだ「福山ゆかりの先人」の一人。柿原実行委員長は「まだ知名度が低い。功績を次の世代にも伝えたい」と来場を呼びかける。定員は120人。申し込み、問い合わせ先は柿原銘板製作所総務課 ☎084(0)533-8800。

（門戸隆彦）

中国新聞 令和5年1月21日



右から磯永吉、大島金太郎博士、末永仁

磯永吉展特別講演会

「台湾を変えた福山の偉人」 磯永吉



磯永吉（最前列左）

磯永吉（1886～1972）は、広島県福山市で生まれた。台湾での稲の日本種栽培法を確立したほか、小麦、亜麻、トウモロコシ、タバコなどの改良や育成に尽力し、台湾農業に革命を起こした。また、台北帝国大学（現台湾大学）教授として人材育成にも尽力し、台湾政府から日本の文化勲章に当たる「特種領綬景星勲章」を贈呈された。まさに「台湾農業の父」と称するにふさわしい偉人である。

講演者



台湾史研究者・作家
古川 勝三

1944年愛媛県宇和島市生まれ。中学校教諭として教職の道を進み、1980年文部省海外派遣教師として、台湾高雄日本人学校で勤務。著書は「台湾の歩んだ道 - 歴史と原住民族 -」「台湾を愛した日本人 八田與一の生涯」「日本人に知ってほしい『台湾の歴史』」「台湾を愛した日本人Ⅱ」「KANO野球部監督 菅原謙太郎の生涯」など。東横台湾観音交流会会長。「台湾を愛した日本人Ⅲ」で磯永吉をテーマに執筆中。

日時：令和5年2月11日（土・祝）13時30分
会場：まなびの館ローズコム4階大会議室
（広島県福山市霞町1-10-1）
入場無料（定員：190人）
お問合せ：084-953-8800

【新型コロナウイルス感染対策について】

会場前での検温にご協力ください。体調、体温が平常でない方のご参加はお断りをさせていただきます。

主催：「台湾を変えた福山の偉人」磯永吉講演会実行委員会 後援：福山市 福山市教育委員会 福山文化連盟